

「今を生きる」ということ

早稲田渋谷シンガポール校 3年
坂井 彩乃

私は二〇一七年の冬、ネパールでの高校生医療ボランティアに二週間参加した。現地の様々な種類の病院で看護婦さんについて歩き治療を見ることで、発展途上国の医療システムについて知ることができた。そして、世界中の高校生が集まって生活も説明も英語で進んでいく中で、参加している学生の共通点を見つけた。それは、自分の知らないことへの探求心を持ち、他の視点を持つことを恐れないことだ。しかし、概念に縛られていると新しいアイデアを思いつくことは難しく、ネットなどメディアの情報を鵜呑みにしてあたかも自分が思いついたかのように発言する人がいるが、私は嫌いだ。そのため、私は世界の現状をこの目で見たいと思いこの活動に参加した。参加する前、発展途上国と先進国の違いは財政力や国のインフラが整備されているか否かであり、先進国の方が幸せで優位であると考えていた。しかし、実際に肌で感じたのは、発展途上国の人々は「今を死ぬ気で生きている」ということだ。国の豊かさに関係なく、衛生状態に恵まれていなくても、環境が違って幸せは平等に感じることができる。小石が落ちており砂埃の舞うグラウンドを裸足で元気に走り回るネパールの小学生を見て、「今を生きている」とはこのことなのだ。と痛切に感じた。また、このような一生懸命生きている姿を目の前にして、衣食住にも困ったことはない私は、当たり前にも恵まれているという幸せを身にしみて気がついた。“今”という時間を精一杯生きることができていますか、という問いかけに自信を持って答えることはできるだろうか。

また、私は学校内の活動だけでなく、世界に目を向け他の地域の現状を生で経験することが重要だと考えている。私は親の仕事の関係で海外に7年間住んでいるため他の環境を経験する機会が多くあり、日本と他の国の違いや、各場所の良い点、新しい視点などを考えることが自然とできていた。しかし、日本に住んでいると、新しい視点を国同士の比較によって考えるのは難しい。もちろん、グローバル化が進んでいる今日、インターネットを通じて多くの情報を知ることは容易である。しかしながら、インターネットで調べて他の場所の情報を手に入れたり学んだりするだけでは、見えない部分や気づけない部分が多くある。現状を実際にみて肌で感じることで経験となり、現状だけでなく原因やより良い改善策も考えることができる。ボランティアに参加する前は、発展途上国で医療が発達しない原因は、物流が届かずお金も十分に無いため、高度な医療を提供することができないからだと考えていた。しかし、医療についてだけでなく、現地の生活を生で見て、現地の小学校へ行き子供たちと接する中で新しい考えが生まれた。それは、医療より優先すべきことが多くあるという現実だ。当然、医療を充実させることは重要であり、充実させるための取り組みも行われているが、それ以上に早急に行わなくてはならない問題がある。まず、インフラの整備だ。清潔な水が十分ではなくシャワーなどの生活用水も出にくい。また、移動に欠かせない道路の整備も必要である。なぜなら、標高が高く、山が険しいという自然環境の中で、やっとトラック一台が通れるような道路の隙間しかなく、一歩間違

えれば崖から落ちてしまうような通路をトラックやバスが渋滞をしながら常に通っているからだ。

私がこの活動を通して、発展途上国の現状を肌で感じ世界の平等性や不平等性、実際に経験をするということの重要性を感じることができた。そして、実際に体験することで体験前と考えが変わり新しい考え方が身についた。国の豊かさで各個人の幸せは測れない。私は、「今を精一杯生きている」と自信を持って言えるように、今を生きていきたい。